

## 国際交流 — カリフォルニア州立大学チコ校訪問

鈴木伸治<sup>1),2)</sup>，里中綾子<sup>1),3)</sup>，寺田泰人<sup>4)</sup>，寺田恭子<sup>1),5)</sup>

1) 常葉大学保健医療学部

2) 名古屋大学医学部保健学科

3) 名古屋大学大学院医学系研究科

4) 名古屋経済大学短期大学部

5) 名古屋短期大学現代教養学科

### 要 旨

私たちは2017年2月20日～22日、カリフォルニア州立大学チコ校の運動学教室を訪問し学術交流を行ってきました。私たちは車いすダンスの研究成果について紹介し、意見交換するとともに、車いすダンス教則DVD英語版を持参し、実際に車いすダンスの実技講習を行ってきました。同時に、カリフォルニア州立大学チコ校が取り組む地域貢献について見聞してきましたので報告致します。

キーワード：車いすダンス，Adapted Physical Education，障害者体育

### はじめに

私たちは2017年2月20日～22日、科研費により、カリフォルニア州立大学チコ校の運動学教室を訪問し学術交流を行ってきたので報告致します。

### 経緯と目的

私たちは国内共同研究グループで、グループの研究テーマは重度脳性麻痺者のフィジカルフィットネスです<sup>1)-3)</sup>。脳性麻痺者のフィジカルフィットネスの研究を行っている研究者やグループは国内では私たち以外にはほとんどいません。しかもほとんど寝たきり状態

にある重度脳性麻痺者を対象とするフィジカルフィットネスに関する研究を行っている研究者やグループは世界的にも稀少です。

従って、国際学会などで、海外の研究者と短時間の討議をする以外、私たちの研究テーマについて意見交換する機会はほとんどありません。しかし、重度障害者のためにカリフォルニア州立大学チコ校運動学教室のCanales LK氏とLytle RK教授が執筆した障害者体育の教則本(2011)には重度障害者が体育に参加している写真が豊富に使用されています<sup>4)</sup>。

そこで、この体育教則本を執筆したLytle教授らと重度障害者のフィジカルフィットネ

スに関する学術交流する機会を得たいと考えました。今回の目的は現地に赴き、私たちの車いすダンスの研究成果について発表するとともに、国際交流のために英語版として作成した車いすダンス教則DVD<sup>5)</sup>を持参し、実際に車いすダンスの実技を紹介し、意見交換を行うこととしました。

### 事前準備

私たちは全員大学教員であるため、比較的時間のとれる2月中旬に仮の日程を設定し、全く面識のないLytle教授にメールで学術交流についてお伺いを立てたところ、即快諾がえられました。当初、Lytle教授が今回の学術交流における受け入れ責任者でしたが、直前の2月5日になってLytle教授自身が急用のため学術交流には参加できなくなり、Lytle教授の代理としてファカルティメンバーのJosephine Blagrove准教授、Marcie Pope講師、およびCarli Ross講師の3名が私たちを受け入れることになりました。

### 学術交流

3日間で合計8コマの学術交流の内容を表1に示します。第1日1限のBEWEL-Adults with Physical Disabilitiesおよび第2日1限のBEWEL-Adults with Dev. Disabilitiesは私たちが車いすダンスを紹介する時間に割り当てられましたが、現地の悪天候による予定便の欠航により第1日1限は最終日の3限にまわされることになりました。

### 車いすダンス

第2日1限のBEWEL-Adults with Dev. DisabilitiesはRoss講師の体育実技指導で、受講者は地域から集まってくる障害をもった10代の子どもや大人達でした。詳しい人数は把握してきませんでしたが、当日は前日からの悪天候にもかかわらず大勢集まって来ていました。Ross講師を手伝うのは大学院修

士課程を終えたインターン、カリキュラムを履修する学生や障害が軽い人達でした。当日はビーチボールバレー、ホッケー、パラバレーンをグループに分かれて行い、同時に音楽をかけ、私たちも車いすに乗った5~6名の人達に車いすダンスの講習を行いました。車いすの脳性麻痺の女性が大変楽しかったとお礼の言葉を残して帰って行かれました。後に、Ross講師からの手紙でも私たちの「positive energy」にインパクトを受けたことなど学生たちも良く話題にしていることがつづられていました。

悪天候による欠航便の影響で最終日の3限に移されたBEWEL-Adults with Physical Disabilitiesは担当教員がRoss講師からPope講師に変更になりました。この時間は私たちが独占的に使用し、学生に車いすダンスの仕方を指導しました。車いすダンスは車いす者が歩行可能な「スタンディング」というパートナーと二人一組でダンスをするので、スタンディングが車いすの後ろに回って車いすを操作するということはありません。持参したDVDは後日、Ross講師が授業で使用しているとのことでしたが、当日はDVDの映写は一切行わず、寺田恭子教授が中心となって私たちが車いすダンスを指導する形で進められました。体育館に約30名の履修学生がバスケットボール用の車いすを用意し、車いす者になったり、スタンディングになったりという形で行いましたが、学生は皆積極的で、消極的な態度を示す学生が一人もいなかったことがとても印象的でした(図1)。



図1. ダンス講習を行う筆者ら。

表 1. Schedule for visit to Chico State University

Monday-Feb 20

Time/location	Program/Activity	Person
12-2:00 Yolo Hall 150	BEWEL-Adults with Physical Disabilities	Cali Ross Program Instructor 526-6447
4:00pm Yolo Hall 218	Kim Crosby & Eric Hightower, Paralympians Speaking in APE University class	Marci Pope Faculty
5-6:30 Yolo Hall 150	Teen Group-Meet in lab At 5pm to walk over to Food lab Tehama 134	Layne Case Autism Instructor

Tuesday-Feb21

10-11:00 Shurmer Gym	BEWEL-Adults with Dev. Disabilities	Carli Ross, Program Instructor
11-12:15 Yolo 218	Intro to APE class visit	Marci Pope, Faculty
2-3:00pm	Autism Clinic Overview	Josie Blagrove, Layne Case, Carli
3-4:00pm Autism Clinic Yolo 150	Observation Room	Ross

Wednesday-Feb22

10:00 Community 7th Street	Mains'1 Center for the Arts	Grad students assist or check with Marci and Josie on how to get there. It is walking distance from campus.
1-4:00pm Community	Community Programs Joe Magee Center Little Red Hen	Josie Blagrove

## 講 義

私たちのために特別に招待されたりオデジャネイロパラリンピックの2人のメダリスト、視力障害陸上競技の Kim Crosby 氏と車いす陸上競技 Eric Hightower 氏が特別講演を行いました。二人のゲストスピーカーはユーモアを交えて話すのがとても上手なばかりではなく、学生もほとんど全員が積極的に発言し、大変盛り上がりました。教育場面で話すことや表現することの重要性を再認識させられた講義となりました。

第2日1限の BEWEL-Adults with Dev. Disabilities の前半部分は脳性麻痺(痙直型四肢麻痺)の Kebin さんとチコ校の元ファカルティメンバーで呼吸療法士である母親の Lisa さんが登壇しました。Kebin さんは高

校を卒業後約10年の大人ですが、大人になった途端、活用できるサービスや資源が乏しくなるそうで、その点はわが国と良く似ていると思いました。やはり、Lisa さんも Kebin さんの家庭における主たる介護者であることから復職は厳しいようでした。私たちは車いすダンスによって家庭における主たる介護者のフィジカルフィットネスも併せて向上できるのではないかと述べましたが、Lisa さんも介護者の健康や体力も重要な問題であることを認識していると述べていました。

## チコ校の地域貢献

第1日3限の Teen Group-Meet in lab at 5pm to walk over to Food lab Tehama 134 は Ross 講師の直近の同僚である Layne

Case 講師が地域に在住する比較的軽度の自閉症の子ども達に提供している食育を兼ねた介入プログラムについても見学して来ました。

この介入はその日自分たちが作り、試食する献立を決めるディスカッションから始まりました。献立を決め、次いで実際に調理し、会食するという流れです。集まってきた9名の子ども達が先を争うように手を挙げ、積極的に発言している様子を目の当たりにし、自閉症の子ども達に対する教育の重要性を再認識しました。

調理するメニューを2つ決めたところで、厨房に移動しました。実はその厨房は運動学教室の管轄ではなく、独立した食品科学教室が運営していたのです。つまり、この介入は学際的な取り組みなのです。厨房では食品科学教室の Maria Giovanni 准教授やシェフらが子ども達の調理実習を実際に指導していました。

また、自閉症に対する介入はこれだけではなく、重症度に合わせて、最も重度な自閉症の子どもに対しては1対1のインターベンションが行われていました。これはCase 講師が第2日の3限にAutism ClinicのObservation Roomで行っているところを見学することができました。

以上のように、カリフォルニア州立大学チコ校の運動学教室は大学内の異なる部署との連携で地域に在住する障害者を集めて体育や教育的リハビリテーションを実践しているのですが、しかし、それだけではありませんでした。

それはコミュニティにおける活動です。最終日1限は、Mains'l Center for the Artsを訪れました。この集団は古い倉庫を借りて知的障害者に演劇指導を行っていました。この集団は大学や教職員、学生、および大学院生の支援を受けています。当日は地域から集まってきた知的障害者を相手にディレクターが、Shel Silverstein のポエムを読みながら

情景を表現するという寸劇の指導を行っていました。2日後に地元の小学校で公演する予定だということでした。練習は午前中に2回行い、1回目の練習のあとディレクターが1対1で演技指導を行い、その後一旦軽食とりながらの休憩をとった後、2回目の練習を行い解散しました。休憩時も皆積極的で、私たちにフレンドリーに話しかけてきて、日本のことやアニメの話題で盛り上がりました。この集団は2016年Chico Mayor's Arts Awardsを受賞しています。

以上見てきましたように、チコ校には地域から大勢の障害者が大学の提供するサービスを受けに集まってきました。これ程大規模な地域貢献を可能にしているのは、一つには地域貢献をカリキュラム化していることが挙げられるかと思います。このカリキュラム化によって学生をマンパワーとして活用できるのだと思います。さらに、大学院は地域貢献においてとても重要で、修士号をとれば、何人かはインターンシップで大学に残り、地域貢献を運営する上で大きな役割を果たしていました。あるいはまた、学位を取得後、大学周辺の障害者施設で働く人もいます。最終日にBlagrove 准教授が車で案内してくれたJoe Magee CenterやLittle Red Henがそのような施設でした。Joe Magee Centerは周辺から集まってくる障害者に対して1対1で活動や参加の支援ができるようになっていました。

### 学術交流の成果

車いすダンスについての学術交流を行うという当初の目的は無事達成しました。また今回の学術交流を通して、カリフォルニア州立大学チコ校がチコにおいて果たしている地域貢献について見聞する機会ともなりました。特に大学院が果たしている役割は大きいものがありました。大学と大学院が地域に人材を創出し、その人材が地域で受け皿となる団体

を作り、大学と協力しながら、地域に在住する障害者のために貢献している状況についても見聞し、大学が果たすべき役割について改めて考える機会となりました。

## 謝 辞

編集の労をとられた高木聖教授、匿名で査読の労をとられた2名の同僚に深謝します。

本国際交流は科研費基盤(C)課題番号26350861の助成を受けました。

5. Terada K, Satonaka A, et al.: Why don't you dance?-Instructional DVD for everyone with paraplegia or tetraplegia. 科研費 2016.

## 引用文献

1. Terada K, Satonaka A, et al.: Cardiorespiratory responses during wheelchair dance in bedridden individuals with severe athetospasitic cerebral palsy. Gazz Med Ital 175;241-247,2016.
2. Terada K, Satonaka A, et al.: Training effects of wheelchair dance on aerobic fitness in bedridden individuals with severe athetospastic cerebral palsy rated to GMFCS level V. Eur J Phys Rehabil, 53:744-750,2017.
3. Terada K, Satonaka A, et al.: Nutritional aspect of a year-long wheelchair dance intervention in bedridden individuals with severe athetospastic cerebral palsy rated to GMFCS level V. Gazz Med Ital, in press.
4. Canales LK, Lytle RK: Physical activities for young people with severe disabilities. Human Kinetics, Champaign, 2011.

鈴木伸治, 里中綾子, 寺田恭子. 国際交流－カリフォルニア州立大学チコ校訪問.  
常葉大学保健医療学部紀要 9 巻 (2018 年)  
別刷請求先: 〒431-2102 都田町 1230 番地, 常葉大学保健医療学部, 鈴木伸治